

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	喜多久美子 中山 育美
学力向上推進員	教諭(教務課長)	重清 里佳
委員	主幹教諭(小学部長) 教諭(中中学部長) 教諭(中高教務主任) 教諭(小教務主任)	藤原 美咲 近藤美和子 瀬尾美由希 近藤 早紀

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部) 児 童 の 状 況		
よ さ	個々の児童の実態に応じた教育課程の編成により、個別最適な教育活動を実施することができている。日々学部教員で情報を共有し、教員全体で指導支援に当たっている。そのため、児童は、心理的にも環境的にも安心安全に学校生活を送り、それぞれのよさを発揮し、成長することができている。また、オンラインの実施により、自宅訪問生も学校から地域まで、活動の幅を広げている。	課題 児童数の減少により、集団での活動が難しくなっている。教員との関わりが多くなり、同世代の児童との関わりや生活経験が限られる傾向にある。児童の成長を考えると、同世代の児童との関わりや経験から身につけることも多いため、多様な人との関わりや豊かな経験を保障していくことが当面の課題である。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
学校全体で取り組む図書館との交流を通して、地域の施設や人とかかわりながら、生活経験を広げることができる。	児童一人一人の設定した目標を「達成」「ほぼ達成」となる割合が8割以上となる。	教員に実施したアンケート結果において、児童に設定した目標を「達成」「ほぼ達成」したとの評価が100%であった。 ----- 評価 A
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
児童一人一人の目標や支援の在り方について話し合う機会を持ち、小学部教員全員の共通理解のもと指導支援をする。 * 中間期の見直し	・地域の人材を外部人材として招聘した授業を1回以上行う。 ・実際に地域の施設を訪問し、地域の人とのやりとりを取り入れた授業を実施する。	図書館の館長を外部講師として招聘し、授業を行った。また、地域の施設を訪問し、地域の方との関わりを持つことができた。
達成状況を踏まえた改善事項		
学校全体で取り組む図書館との交流を通し、児童それぞれの今年度の目標を達成することができた。次年度も地域の方との関わりや豊かな体験を保障し、社会との共創をめざす。		

(中 ・ 高 等 部) 生 徒 の 状 況

よ さ	学部や学校行事において、準備や当日の係や仕事に懸命に取り組む姿が見られる。校外での様々な体験を積むことで、個々に様々なことに挑戦しようとする力がついてきている。	課 題	生徒数の減少や障がいの多様化により、集団活動の保障や、生徒同士でコミュニケーションをとりながら関係性を深めていくことが難しい。校外における活動を通して、様々な人と関わる中で、自分を表現し、コミュニケーション力を高めていくことも課題である。
<p>具体的目標(目指す子どもの姿)</p>		<p>成果指標</p>	<p>達成状況</p>
<p>学校全体で取り組む図書館との交流を通して、地域の施設や人とかかわりながら生活経験を広げ、コミュニケーション能力を高めることができる。</p>		<p>生徒一人一人の設定した目標を「達成」「ほぼ達成」となる割合が8割以上となる。</p>	<p>教員に実施したアンケート結果において、生徒に設定した目標を「達成」「ほぼ達成」したとの評価が100%であった。</p> <hr/> <p>評価 A</p>
<p>具体的方策(教員の取組)</p>		<p>取組指標</p>	<p>取組状況</p>
<p>生徒一人一人の目標や支援の在り方について話し合う機会を持ち、中・高等部担当教員全員の共通理解のもと指導支援をする。</p> <hr/> <p>* 中間期の見直し</p>		<p>・地域の人材を外部人材として招聘した授業を1回以上行う。 ・実際に地域の施設を訪問し、地域の方とのやりとりを取り入れた授業を実施する。</p>	<p>図書館の館長を外部講師として招聘し、授業を行った。また、地域の施設を訪問し、地域の方との関わりを持つことができた。</p>
<p>達成状況を踏まえた改善事項</p>			
<p>学校全体で取り組む図書館との交流を通し、生徒それぞれの今年度の目標を達成することができた。次年度も個々の社会参加や自己実現に向けて、様々な人と関わりながら主体的に取り組む、社会と共創することができる生徒の育成をめざす。</p>			